

科目No	科目区分	科目群	科目担当者		授業科目	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	ディプロマポリシーの到達度						
			責任者	他担当者				1. 人の暮らしを当事者目線で理解する能力	2. 倫理的な能力と対話能力	3. 気づく能力と思考する能力	4. 人の生涯の暮らしを支える看護を実践する能力	5. 人の暮らしを地域に活かす能力	6. 不断に看護を学び続ける能力	
1	専門基礎科目	暮らしを支える看護のスタート	城賀本	小岡	看護基礎セミナー	毎回のグループワークやディスカッションを通じて、異なる価値観や生活背景を持つ人々がいることの理解と、他者を尊重し共感性をもって支援することの必要性について学修する。看護の対象となる人々を支援する能力を養うために、看護職者として基盤となる物事の捉え方、思考、コミュニケーションスキルを身に付ける。	1. 他者の多様な背景や価値観を理解し、相手を尊重する態度でディスカッションできる。 2. 自分の考えや物事の捉え方を客観的に振り返りながら、論理的に筋道を立てて他者に説明できる。 3. 自分とは異なる価値観や考えをもつ人とのコミュニケーションの図り方について考察する。		◎	○				
2	専門基礎科目	暮らしを支える看護	川口		人の身体Ⅰ	高校までに学んできた科学や生物の知識を整理・統合しながら、身体を構成する最小単位である細胞や組織について学修する。 人体の正常な機能の知識をもとに地域で暮らしを支える人々を理解するために、消化器系の構造や機能、栄養と代謝系について、発達の視点を踏まえて理解する。	1. 細胞を構成する細胞小器官の構造と働きを説明できる。 2. 人体を構成する組織を説明できる。 3. 解剖学的な用語を使って身体の構造を説明できる。 4. 個々の器官の構造と機能を説明できる。 5. 三大栄養素と代謝を概説できる。		◎					
3	専門基礎科目	暮らしを支える看護のスタート	川口		人の身体Ⅱ	人体骨格標本や3Dモデルを用いながら、人体の構造と機能を立体的に学修する。人体解剖学実習においては、人体の構造を看護技術や臨床的な事項と関連付けながら学修する。 人体の正常な構造や機能の知識をもとに地域で暮らしを支える人々を理解するために、神経系、運動系、感覚器系、循環器系、血液・体液、免疫系、呼吸器系、皮膚の構造や機能について、発達の視点を踏まえて理解する。	1. 解剖学的な用語を使って身体の構造を説明できる。 2. 個々の器官・臓器の機能を説明できる。 3. 器官と器官がどのように連携して身体機能を維持しているかを説明できる。 4. 成長・発達にともなって、身体の構造や機能がどのように変化するかを説明できる。		◎					
4	専門基礎科目	暮らしを支える看護	川口		人の身体Ⅲ	人体の臓器模型や3Dモデルを用いながら、人体の構造と機能を立体的に学修する。 人体の正常な構造や機能の知識をもとに地域で暮らしを支える人々を理解するために、泌尿器系、内分泌系、性と生殖系の器官や臓器の構造や形態、機能について、発達の視点を踏まえて理解する。	1. 解剖学的な用語を使って身体の構造を説明できる。 2. 個々の器官・臓器の機能を説明できる。 3. 器官と器官がどのように連携して身体機能を維持しているかを説明できる。 4. 成長・発達にともなって、身体の構造や機能がどのように変化するかを説明できる。		◎					
5	専門基礎科目	暮らしを支える看護	川口		疾病・治療論Ⅰ	人体の正常な構造や機能に関する知識と関連付けながら、その変調によって起こる疾病の要因を学修する。 疾病や治療が人の暮らしに及ぼす影響と、人の暮らしが疾病や治療に及ぼす影響を理解するために、基本的な病因とその成り立ちを理解する。	1. 疾病の内因と外因、その関連性を説明できる。 2. 細胞傷害とその適応反応について説明できる。 3. 感染の原因となる病原微生物と免疫機構について説明できる。 4. がん、炎症、免疫異常、など生体の障害について説明できる。		◎					
6	専門基礎科目	暮らしを支える看護のスタート	川口	茂木 正樹 永井 祥子 内田 大亮 竹下 英次 押切 太郎 亀井 義明 榎田 祐三 壺田 昌敬 大谷 真二 黒部 裕嗣 日野 和典 日野 雅之	疾病・治療論Ⅱ	既習の人体の正常な構造や機能に関する知識と関連付けながら、疾病に対する診断と治療を学修する。 疾病や治療が人の暮らしに及ぼす影響と人の暮らしが疾病や治療に及ぼす影響を理解するために、疾病の診断の基本と方法、薬物療法、非薬物療法について理解する。	1. 疾病の診断のために行う医療面接、身体診察。検査の方法を説明できる。 2. 代表的な薬物の与薬方法、薬物の作用する場所、薬効のメリット（主作用）とデメリット（有害作用）、主な対策を説明できる。 3. 代表的な治療法である、手術・麻酔、放射線療法、輸血、リハビリテーション、食事療法、臓器移植・再生医療、人工透析、精神療法の方法及び適用を説明できる。		◎					
7	専門基礎科目	暮らしを支える看護のスタート	川口	重松 裕二 竹中 克斗 三宅 映己 中口 博允	疾病・治療論Ⅲ	既習の人体の正常な構造や機能、疾病の要因や治療に関する知識と関連付けながら、疾患の病態と治療を学修する。 疾病や治療が人の暮らしに及ぼす影響と人の暮らしが疾病や治療に及ぼす影響を理解するために、呼吸機能、循環機能、栄養摂取・消化・吸収機能、造血機能、免疫機能に関する代表的な疾病の診断の基本と方法、薬物療法、非薬物療法について理解する。	1. 代表的な疾患の病態、症状、予後について説明できる。 2. 代表的な疾患の病態や症状と関連づけて診断、治療法と適用について説明できる。 3. 患者に行われる治療の実際を具体的に説明できる。		◎	○				

科目No	科目区分	科目群	科目担当者		授業科目	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	ディプロマポリシーの到達度						
			責任者	他担当者				1. 人の暮らしを当事者目線で理解する能力	2. 倫理的な能力と対話能力	3. 気づく能力と思考する能力	4. 人の生涯の暮らしを支える看護を実践する能力	5. 人の暮らしを地域性を看護に活かす能力	6. 不断に看護を学び続ける能力	
8	専門基礎科目	暮らしを支える看護のスタ	川口	西原 江里子 飯森 宏仁 西原 克彦 井上 明宏 松本 調 河邊 憲太郎 松田 恵 澤田 健二郎 越智 雅之	疾病・治療論Ⅳ	既習の人体の正常な構造や機能、疾病の要因や治療に関する知識と関連付けながら、疾患の病態と治療を学修する。 疾病や治療が人の暮らしに及ぼす影響と人の暮らしが疾病や治療に及ぼす影響を理解するために、内部環境調節機能、神経機能運動機能、排泄機能、生殖機能、精神機能に関する代表的な疾病の診断の基本と方法、薬物療法、非薬物療法をについて理解する。	1. 代表的な疾患の病態、症状、予後について説明できる。 2. 代表的な疾患の病態や症状と関連づけて診断、治療法と適用について説明できる。 3. 患者に行われる治療の実際を具体的に説明できる。	◎						
9	専門基礎科目	暮らしを支える看護のスタ	薬師神	江口 真理子 田内 久道 檜垣 高史 打田 俊司 栢屋 隆太	疾病・治療論Ⅴ	既習の人間の正常な構造や機能、疾病の要因や治療に関する知識と関連付けながら、疾患の病態と治療を学修する。 疾病や治療が人の暮らしに及ぼす影響と人の暮らしが疾病や治療に及ぼす影響を理解するために、新生児や小児の代表的な疾病の診断の基本と方法、薬物療法、非薬物療法について理解する。	1. 小児の医療と保健の実態について疫学的な視点から学び、小児医療や小児保健に現状と展望について説明できる。 2. 小児の成長と発達の特徴について説明できる。 3. 小児期に特徴的な疾患について、その病態、症状、診断、治療についてその特徴が説明できる。	◎						
10	専門基礎科目	暮らしを支える看護のスタ	小岡 (授業担当無し)	山本 克司	社会保障健康論Ⅰ	地域で暮らす人の生涯の暮らしと関連づけながら、人暮らしを支える社会福祉のための社会保障のについて学修する。 人々の地域での健康的な暮らしを制度を活用して支えるために、基本的人権を保障する我が国の社会保障や社会福祉の考え方について理解する。	1. 患者の「個人の尊厳」と基本的人権について説明できる。 2. 社会保障の理念・目的、機能について説明できる。 3. 社会保険制度について説明できる。 4. 社会保険制度における「医療保障」の仕組みについて説明できる。 5. 社会保険制度における「所得保障」の仕組みと公的扶助について説明できる。	○					◎	
11	専門基礎科目	暮らしを支える看護のスタ	小岡 (授業担当無し)	山本 克司	社会保障健康論Ⅱ	地域で暮らす人の生涯の暮らしと関連づけながら、人の暮らしを支える社会保障制度と社会保険制度について学修する。 地域での人々の健康的な暮らしを制度を活用して支えるために、基本的人権を保障する現行の社会保障制度や社会保険制度で利用できる代表的な社会資源やサービスについて理解する	1. 介護保険制度の仕組みについて説明できる。 2. 社会福祉領域に関心を持ち、共生社会実現に不可欠な課題を認識できる。 3. 対象者理解、対象者支援のための多職種連携の意義について説明できる。 4. 学修した社会保障制度を活用した上で成り立つ人の暮らしについて、具体的な人の生活で例示できる。	○					◎	
12	専門基礎科目	暮らしを支える看護のスタ	吉田	近藤 益代 平井 美奈子	社会保障健康論Ⅲ	地域で暮らす人の生涯の暮らしと関連づけながら、人の暮らしを支える社会福祉に関する法や施策を学修する。 人々の地域での健康的な暮らしを制度を活用して支えるために、基本的人権を保障する現行の社会福祉に関する法や制度で利用できる代表的な社会資源やサービスについて理解する。	1. 人々が健康的に暮らししていく上で保健福祉が果たす役割を説明できる 2. ライフサイクルの生活上の困難や課題や個人のニーズに対応した社会福祉に関する社会福祉制度やサービスを説明できる 3. 社会福祉制度やサービスを活用するために誰とどのように連携すればよいかを説明できる 4. 何らかの生活上の困難や課題を抱える人に対する社会福祉制度やサービスの活用を例示できる	○					◎	
13	専門科目	暮らしを支える看護のスタ	陶山	吉田 永田 山内 宮内 薬師神 柴	地域で暮らす人を知る	地域での暮らしと人々のコミュニケーションや生活環境の観察の体験を通して学修した地域での人の暮らしと関連付けながら、地域で暮らす人の見方やとらえ方について学修する。 健康課題を地域での暮らしと関連づけてとらえる視点をもつために、あらゆる発達段階にある人々の身体的・心理的・社会的特徴や地域での暮らしと健康について考察する。	1. 地域で暮らすあらゆる年代の人々について身体的・精神的・社会的側面から説明できる。 2. 地域で暮らす人々が健康生活を営むための自助、互助、共助、公助への関心を深めることができる。 3. 人々が健康生活を営むための環境や文化、社会資源について説明できる。 4. 保健行動やヘルスリテラシー、ヘルスコミュニケーションの理論を説明できる。	◎	○					

科目No	科目区分	科目群	科目担当者		授業科目	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	ディプロマポリシーの到達度					
			責任者	他担当者				1. 人の暮らしを当事者目線で理解する能力	2. 倫理的な能力と対話能力	3. 気づく能力と思考する能力	4. 人の生涯の暮らしを支える看護を实践する能力	5. 人の暮らしを地域性を看護に活かす能力	6. 不断に看護を学び続ける能力
14	専門科目	暮らしを支える看護のスタート	相原		コミュニケーション論	自己理解や他者理解をしながら、看護を行う上で重要となるコミュニケーションについて学修する。 暮らしを支える看護の対象となる人々を共感的に理解し対話するために、援助的人間関係理論やコミュニケーション技法について理解する。	1. 対人関係の基本となるコミュニケーション技法を説明できる 2. 理論を通して援助的人間関係に必要なコミュニケーションについて説明できる 3. 看護におけるコミュニケーションの重要性を自分の言葉で説明できる 4. 援助的な人間関係に必要なコミュニケーションをロールプレイできる	○	◎				
15	専門科目	暮らしを支える看護のスタート	陶山	相原 永田 山内 宮内 吉田 城賀本	暮らしの体験演習	地域で暮らしを人の自宅を訪問し、その人とのコミュニケーションや生活環境の観察等の体験を通じて、地域での人の暮らしについて学修する。 地域で暮らしの見方や感じ方を当事者の視点で理解するために、その人の生活歴、価値観、健康観、願望、さらにその人の暮らしと環境の相互作用について考察する。	1. 地域で暮らしの人を理解するために必要な視点をあげることができる。 2. 対象者となる人とコミュニケーションをとることができる。 3. 対象者の語りから、その人の人生あるいは健康に対する考え方や暮らしの特徴を説明することができる。 4. 対象者の暮らしに環境が及ぼす影響や、環境に対する対象者の暮らしの工夫について、説明することができる。	◎	○				
16	専門科目	暮らしを支える看護のスタート	陶山 相原	永田 柴 小岡 城賀本 吉田	暮らしの支援実習I	地域の様々な場で働く看護職の看護の実践場面を見学することを通して、地域包括ケアにおける看護職の役割・機能を学修する。 地域で暮らしの人々を支える看護の必要性を認識し、関心を高めるために、看護職とその対象者の行動観察に基づき対象者の看護ニーズと看護職の実際の支援方法について考察する。	1. 看護の対象者は地域で生活していることを表現している。 2. 対象者の生活に影響を及ぼしている環境について表現できる。 3. 実際の看護場面の見学を通し、看護の対象者の反応について表現できる。 4. 地域で暮らしの人々の健康生活を支える看護実践について表現できる。 5. 今後の学習への動機づけができる。	◎	○				
17	専門科目	日常生活を整える支援科目	永田	相原	看護学基礎論	人の暮らしの様々な場で働く看護職の看護の実践の見学を通して学修した看護職の役割・機能と関連付けながら、人の暮らしを支える看護のあり方について学修する。 看護の対象となる人々の当事者目線を重視しながら、これから学ぶ全ての看護の基盤となる、看護の概念や看護職が担う役割を理解する。	1. 看護の歴史を説明できる。 2. 看護学の重要概念（人間、環境、健康、看護・ケアリング）・目的、役割を説明できる。 3. 看護の提供システムに関する基礎知識を説明できる。 4. 看護の教育制度の変遷、今後の展望を説明できる。 5. 看護職に求められる社会的ニーズについて説明できる。	◎					
18	専門科目	日常生活を整える支援科目	相原	陶山 宮内 柴	看護倫理	自分たちの身近な暮らしの中に潜む倫理的問題と関連付けながら、看護活動における倫理的な考え方を学修する。 多様な人々の自律性を尊重した支援につなげるために、多様な価値観・心情や生活背景を持つ人々の意思決定支援を含む人権擁護について考察する。	1. 看護実践に関わる倫理原則を説明できる。 2. 看護者の倫理綱領を説明できる。 3. 倫理的なジレンマが生じる場面において、倫理原則を応用した分析ができる。 4. 倫理的な課題を倫理原則に基づく分析を踏まえて、解決策を導き出し説明することができる。 5. 看護の対象となる人の意思決定支援における看護職の役割について、自ら言葉で説明できる。	○	◎				
19	専門科目	日常生活を整える支援科目	永田		看護理論入門	看護の歴史的発展の中で開発された代表的な看護理論を通して、看護実践の科学的根拠となる看護理論の必要性や役割について学修する。人の暮らしを当事者の視点で理解し、健康課題に対応した最適な看護方法の判断や自己の看護観の形成のために、看護理論の必要性や実践への適応について理解する。 ・看護理論の開発・歴史的発展を辿り、看護理論、実践、研究との関係について学習する。 ・主な看護理論家の理論の概要と、その主要概念について学習する。 ・看護理論が実践現場に必要な理由について理解する。	1. 看護理論の役割について説明できる。 2. 看護理論の歴史の変遷について説明できる。 3. 代表的な看護理論の特徴を説明できる。 4. 看護理論の看護実践への適応について説明できる。	○	◎	○			

科目No	科目区分	科目群	科目担当者		授業科目	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	ディプロマポリシーの到達度					
			責任者	他担当者				1. 人の暮らしを当事者目線で理解する能力	2. 倫理的な能力と対話能力	3. 気づく能力と思考する能力	4. 人の生涯の暮らしを支える看護を実践する能力	5. 人の暮らしを地域に活かす能力	6. 不断に看護を学び続ける能力
20	専門科目	日常生活を整える支援科目	相原	永田 城賀本	看護技術演習Ⅰ	<p>人体の正常な機能や構造、その変調と関連付けながら、人が暮らしあらゆる療養の場に共通する看護援助技術について学修する。</p> <p>看護の対象となる人々の多様性や自律性を尊重し、人の暮らしを支える看護を実践するために、対象者の看護ニーズに気づき最適な看護を展開するための基盤となる看護技術の考え方や基本的な手技を身につける。</p>	<p>1. 看護技術の概念、修得方法について説明できる。</p> <p>2. 全ての看護実践の基礎となる安全・安楽・自立の意味が説明できる。</p> <p>3. 観察・記録・報告の技術が実施できる。</p> <p>4. 看護技術実施時に必要となるボディメカニクスが実施できる。</p> <p>5. 療養環境を整える技術が実施できる。</p> <p>6. 感染予防の技術としてスタンダードプリコーションの概念の説明と衛生的な手洗い方法が実施できる。</p> <p>7. バイタルサイン測定の意義が説明でき、正確な測定・評価が実施できる。</p>		○	◎			
21	専門科目	日常生活を整える支援科目	相原	陶山 永田 城賀本 小岡 吉田 西山 鳥谷	看護技術演習Ⅱ (基礎・成人・老年・在宅・地域)	<p>人体の正常な構造や機能及び対象となる人の発達段階と健康状態の特徴と関連づけながら、人の基本的なニーズを満たすための日常生活援助技術や診療に伴う援助技術について学修する。</p> <p>対象の特性に応じて安全で快適な日常生活援助技術や診療に伴う援助技術を実施するために、食事、排泄、活動・休息、清潔・衣生活に関する最適な援助方法を選択し実施できる知識と技術を身につける。</p>	<p>1. 日常生活行動に援助が必要な理由を、正常な状態と比較して説明できる。</p> <p>2. 日常生活に援助が必要となる原因に基づく援助方法を選択できる。</p> <p>3. 援助技術を手順に添って実施することができる。</p> <p>4. 対象となる人の意思や快適性を尊重した援助が実施できる</p>		○	◎	○		
22	専門科目	日常生活を整える支援科目	永田	山内 二井谷 相原 城賀本 山下 竹井 中野	看護技術演習Ⅲ (基礎・成人・老年・在宅・地域)	<p>人体の正常な構造や機能及び対象となる人の発達段階と健康状態の特徴とを関連づけながら、人の基本的なニーズを満たすための日常生活援助技術や診療に伴う援助技術について学修する。</p> <p>対象の特性に応じて安全で快適な日常生活援助技術や診療に伴う援助技術を実施するために、呼吸・循環を整える援助技術や創傷管理、与薬の技術に関する最適な援助方法を選択し実施できる知識と技術を身につける。</p>	<p>1. 日常生活行動に援助が必要な理由を、正常な状態と比較して説明できる。</p> <p>2. 日常生活に援助が必要となる原因に基づく援助方法を選択できる。</p> <p>3. 援助技術を手順に添って実施することができる。</p> <p>4. 対象となる人の意思や快適性を尊重した援助が実施できる。</p>		○	◎	○		
23	専門科目	日常生活を整える支援科目	宮内	薬師神 井上 森貞	看護技術演習Ⅳ	<p>小児看護・母性看護に特有な専門的知識に基づく技術について学修する。</p> <p>子どもの成長発達段階、妊婦・産婦の健康状態や生活の場に応じた援助技術の実施のために、対象の特性に応じた安全・安楽な援助技術の適応と手技について身につける。</p>	<p>1. 根拠をふまえた小児・母性看護技術の原則を理解し、目的・方法・注意点について説明できる。</p> <p>2. 小児の発達の特性や病状、女性のマタニティサイクルにおける特性を考慮した、基本的な看護技術を実施できる。</p> <p>3. 母子の安全・安楽を考慮した看護技術を実施できる。</p> <p>4. 母子の感染予防を考慮した看護技術を実施できる。</p> <p>5. 発達段階にそった説明・同意と、家族への配慮をふまえて看護技術を実施できる。</p> <p>6. 母子および家族の生活の場に応じた看護技術の実施方法について説明できる。</p>		○	◎	○		
24	専門科目	日常生活を整える支援科目	永田	相原 城賀本	看護の思考過程Ⅰ	<p>人の暮らしや人体の正常な機能や構造と関連付けながら、看護実践の基礎となる思考過程である看護過程について講義と事例演習を通じて学修する。</p> <p>系統的な思考に基づき健康課題を抱える人々の看護ニーズに気づき必要な看護を実践するために、看護過程の構成要素を理解する。</p>	<p>1. 看護の系統的思考のプロセスである看護過程について説明できる。</p> <p>2. 患者の反応についてクリティカルシンキングすることができる。</p> <p>3. NANDAの看護診断の開発過程について学び、NANDA看護診断の構造を説明できる。</p> <p>4. ゴードンの機能的健康パターンを用いた看護過程の展開を実施できる</p>		○	◎			

科目No	科目区分	科目群	科目担当者		授業科目	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	ディプロマポリシーの到達度						
			責任者	他担当者				1. 人の暮らしを当事者目線で理解する能力	2. 倫理的な能力と対話能力	3. 気づく能力と思考する能力	4. 人の生涯の暮らしを支える看護を実践する能力	5. 人の暮らしを地域に活かす能力	6. 不断に看護を学び続ける能力	
25	専門科目	日常生活を整える支援科	城賀本	永田 相原 柴	看護の思考過程Ⅱ	人体の正常な機能や構造と関連付けながら、人の地域での暮らしを支える看護の基礎となるヘルスアセスメントについて学修する。 対象者のヘルスアセスメントに基づいて最適な看護を実践するために、対象の身体的・精神的・心理的な状況を適切に把握し、アセスメントできる能力を身につける。	1. ヘルスアセスメントの意義について説明することができる。 2. フィジカルアセスメントに関する基本的な知識や技術を理解し、指導のもとで実施できる。 3. 測定した情報を統合して、看護の対象の健康状態をアセスメントし健康の維持増進・回復のための援助方法を説明できる。		○	◎				
26	専門科目	日常生活を整える支援科	永田	相原 川口 城賀本 山下 竹井 中野 井上 西山 鳥谷 森貞	日常生活支援実習	入院患者を受け持ち、援助的人間関係の形成及び看護過程を用いて看護を実践・見学することを通して、看護の基本となるコミュニケーションと思考過程を学修する。 対象者のニーズに気づき、地域での暮らしや社会資源を含めて健康課題を把握し最適な看護方法を判断、実施する能力を身につけるために、患者との関わりを中心に身体的、心理的、社会的側面から患者をアセスメントし、必要な看護計画を立案し実施・評価する。	1. 患者との関わりを通して、人間関係の成立、発展を図ることができる。 2. 面接とフィジカルアセスメントから得られた情報の意味を科学的根拠に基づき推論することができる。 3. 実習期間中に理解した患者を看護理論と照合して理解することができる。 4. 患者の個性を重視した日常生活の援助技術を修得できる。 5. 患者に実施したケアが患者に与えた影響について思考できる。	○	○	◎				
27	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科	小岡	城賀本 山内 陶山 宮内 柴 藤村 山下 達川 吉田 竹井 中野 西山 井上 鳥谷 森貞	看護の思考過程Ⅲ	地域での暮らしを継続するうえで課題を抱える事例を用いた看護過程演習を通じて、地域での暮らしを支える看護の思考過程を学修する。 健康と暮らしを継続的にとらえて健康課題に対応した看護を実践するために、健康課題とその人の暮らし方、生活環境や地域の特性・社会資源を関連づける思考過程を身につける。	1. 健康課題の各期の看護過程の展開において、ウェルネス思考、問題解決型思考、目標志向型思考を用いることができる。 2. 看護の対象となる人が望む生活がどのような生活であるかを想起し、住み慣れた地域で暮らし続けていく視点をもって情報収集、情報の分析・解釈ができる。 3. 看護の対象となる人の望む生活を実現するために必要な看護計画を立案・実践できる。			◎	○	○		
28	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科	二井谷	城賀本 山下 竹井 中野 井上 西山 鳥谷 森貞	看護の思考過程Ⅳ	事例患者に対する臨床判断のプロセスを踏んだ援助を体験することを通して、臨床判断の基礎を学修する。 地域で暮らす人のその時々健康課題に対応した看護を即時的に実践するために、思考スキルの基礎を身につける。	1. 看護師が行う臨床判断のプロセスを説明できる。 2. 対象者の情報や様相から何が起こる可能性があるかの予測を多角的に考えることができ、それに基づいてコミュニケーションやフィジカルイグザミネーションを用いて系統的な情報探索ができる。 3. 多数の予測を基に収集したデータを「分析的」「直感的」「説話的」に解釈し、知識や経験を活かして、看護職として思考できる。 4. 対象者の状況にあわせた看護を展開でき、対象者の反応によって、看護を進展させることができる。 5. 自分がおこなった臨床判断のプロセスを振り返り、知識・技術・経験について客観的に分析し、今後、取り組むべき課題を具体的に見いだすことができる。		○	◎	○			
29	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科	藤村	山内 千由紀	健康課題別看護ⅠA：健康増進支援論	生活集団（家庭・学校・産業）における看護活動の実践事例を通して、健康の保持増進や疾病予防、自立の促進等を旨とした看護支援について学修する。 人の生涯の地域での暮らしを見据え、地域で暮らすあらゆる年代の人々のWell-beingを促進し、健康課題を解決するために、ヘルスプロモーションやヘルスコミュニケーションの基礎理論に対する理解をしたうえで、人々の健康に対するセルフコントロールの獲得等の必要な看護支援について考察する。	1. 地域で暮らすあらゆる発達段階にある人々の健康の保持・増進に関わる特徴や健康課題をライフサイクルに沿って説明できる。 2. 健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護支援をライフサイクルに沿って説明できる。 3. ヘルスプロモーションの基礎理論を生活集団（家庭・学校・産業）に当てはめて説明できる。 4. ヘルスコミュニケーションの基礎理論について例を挙げて説明できる。 5. 生活集団（家庭・学校・産業）に対する看護活動のあり方について説明できる。	○		○	◎	○		

科目No	科目区分	科目群	科目担当者		授業科目	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	ディプロマポリシーの到達度					
			責任者	他担当者				1. 人の暮らしを当事者目線で理解する能力	2. 倫理的能力と対話能力	3. 気づく能力と思考する能力	4. 人の暮らしを支える看護を実践する能力	5. 人の暮らしを地域性を活かす能力	6. 不断に看護を学び続ける能力
30	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	宮内	森貞	健康課題別看護ⅠB：女性健康支援論	女性の各ライフステージにおけるウイメンズヘルスおよびマタニティサイクルに関する体験学習や事例検討を通して、女性の健康課題や支援方法について学修する。 これらを通して、女性の性と生殖における健康の保持増進と疾病予防の視点から、各ライフステージおよびマタニティサイクルの看護上の課題と支援方法について理解する。	1. 女性の性と生殖における健康の視点で、各ライフステージにおけるウイメンズヘルスおよびマタニティサイクルの特性と看護上の課題について説明できる。 2. 各ライフステージのウイメンズヘルスおよびマタニティサイクルにおける支援方法の特徴について説明できる。 3. 健康課題の診断に必要な情報収集とアセスメントができる。 4. 対象のニーズおよび健康課題の評価ができる。 5. 体験学習や事例検討を通して、対象の経験に対する理解を深め、支援のあり方について説明できる。	○		○	◎	○	
31	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	山内	山下中野 佐藤 格夫 矢野 寛明	健康課題別看護ⅡA：生命危機支援論	既習の病態や治療、地域での人の暮らしに関する知識を関連づけながら、侵襲的な治療法である手術や疾患の罹患により生命の危機にある人と家族への看護援助方法を学修する。 急激な健康破綻をきたした人が地域での暮らしを早期に取り戻す看護を実践するために、急激な健康破綻をきたした人に対する生命の危機的状態からの脱却と回復を促進する支援方法と援助技術を身に付ける。	1. 周手術期にある人、急性疾患の発症や外傷により重篤な状況に陥った人と家族の特徴を説明できる。 2. 周手術期にある人の手術侵襲からの回復を促す援助、重篤な状況にある人や急性症状のある人の生命維持の援助、心理社会的な援助の方法を説明できる。 3. 急激な健康破綻にある人の生命の危機的状態からの脱却と回復を促進するための基本的な援助を、模擬的状況下において実施できる。 4. 周手術看護と急性・重症患者の看護の共通点・相違点を説明できる。	○		○	◎		
32	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	小岡	柴吉田	健康課題別看護ⅡB：生活再構築支援論	回復期にありリハビリテーションを必要とする人とその家族に必要な看護を、障害からの心身の回復過程や既習の社会資源と関連づけながら学修する。 その人の望む生活の再構築を支援するために、生活機能の回復や障害受容を促進する援助方法、有効な社会資源の活用について理解する	1. 障害をもつ人とその家族の特徴を説明できる。 2. 障害をもつ人の身体機能の回復促進や生活機能を再獲得するための援助方法について説明できる。 3. 障害をもつ人とその家族の心理状態を理解し、障害を受容するための心理的援助について説明できる。 4. 障害を持つ人とその家族が、生活を再構築するために必要な社会資源の活用方法について説明できる	○			◎	○	
33	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	二井谷	柴山下 竹井中野 幸田 裕司	健康課題別看護ⅢA：セルフマネジメント支援論	既習の病態や治療、地域での人の暮らしに関する知識を関連づけながら、セルフマネジメントを必要とする慢性的な健康課題をもつ人と家族への看護援助方法を学修する 慢性的な健康課題をもつ人が地域において病いとともに生きることを支えるために、病気・治療や生活のセルフマネジメントを促進する支援方法と援助技術を身につける。	1. 慢性疾患や慢性的な精神障害をもつ人と家族の特徴を説明できる 2. 慢性的な疾患を抱える人への支援の基盤となる諸理論・概念について説明できる。 3. 疾病認識と自己管理の状況、検査値等からセルフマネジメントの現状と課題をアセスメントできる。 4. 薬物療法等の治療の効果や副作用、急性増悪の誘因を理解し、予防的に対応するための方法を説明できる。 5. 対象者のセルフマネジメントによる自分らしい生活を実現するために必要な看護支援を説明できる。	○			◎	○	
34	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	小岡	陶山鳥谷	健康課題別看護ⅢB：生活機能支援論	加齢により不可逆な心身機能の低下をきたしている人とその家族に必要な看護を、既習の病態や加齢によって生じる生活機能障害に関する知識を関連づけながら学修する。 対象となる人の質の高い療養生活を支えるために、生活機能に関するアセスメント力を身につけ、本人の持っている能力と生活史を活用した暮らし方を考察する。	1. 加齢により不可逆的な心身の機能低下をきたし療養生活を送る人とその家族の特徴を説明できる。 2. 加齢により不可逆な心身の機能低下をきたした人がもつ生活障害をアセスメントし、本人がもつ力を最大限に引き出すための援助方法を説明できる。 3. 加齢により不可逆な心身の機能低下をきたした人の生活史と現在の望みを尊重した援助内容を選択することができる。 4. 加齢により不可逆的な心身の機能低下をきたした人の療養生活を支える家族の体験を理解し、適切な援助方法を説明できる。	○		○	◎		

科目No	科目区分	科目群	科目担当者		授業科目	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	ディプロマポリシーの到達度					
			責任者	他担当者				1. 人の暮らしを当事者目線で理解する能力	2. 倫理的な能力と対話能力	3. 気づく能力と思考する能力	4. 人の生涯の暮らしを支える看護を実践する能力	5. 人の暮らしを地域性を活かす能力	6. 不断に看護を学び続ける能力
35	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	吉田	西山	健康課題別看護ⅢC：地域生活支援論	事例を基にしたグループワークを通して、慢性・不可逆的な健康課題を有し地域で暮らす在宅療養者の看護方法を学修する。 慢性・不可逆的な健康課題を有する在宅療養者の日常生活を総合的な視点で捉えて支援するために、在宅療養者と家族の特性、在宅看護の方法、家族の支援方法について理解する。	1. 在宅療養者とその家族の特性を理解し、看護職の役割を説明できる。 2. 健康課題を有する在宅療養者の事例を分析し、アセスメントに基づき、患者と家族のニーズを明確に述べることができる。 3. 在宅看護の方法を理解し、生活の質を考慮した支援方法を、事例に基づいて根拠を示しながら提案できる。 4. 在宅療養支援に関わる機関の役割と連携の仕組みを理解し、多職種連携の重要性を具体例を用いて説明できる。	○		○	◎	○	
36	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	陶山	山内二井谷小岡吉田山下竹井中野西山鳥谷	健康課題別看護Ⅳ：エンドオブライフ支援論	既習の病態や治療、地域での人の暮らしに関する知識を関連づけながら、エンドオブライフにある人と家族への看護援助方法を学修する。 死が差し迫った人やそう遠くない将来に死が訪れる人が暮らす地域で最期のときまで自分らしく生きることを支えるために、エンドオブライフ・ケアの方法と援助技術を身につける。	1. 死が差し迫った人やそう遠くない将来に死が訪れる人と家族の特徴を説明できる。 2. 死が差し迫った人やそう遠くない将来に死が訪れる人と家族の全人的苦痛の緩和の援助、死にゆく人の意思を支える援助、グリーフケアの方法を説明できる。 3. 死が差し迫った人やそう遠くない将来に死が訪れる人と家族へのエンドオブライフ・ケアのための基本的な援助を実施できる。 4. 死のありようによる看護方法の違いを説明できる。	○		○	◎		
37	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	薬師神	井上	健康課題別看護Ⅴ：小児発達支援論	地域の中で生活する子どもと家族をとりまく社会や小児医療・保健の現状を通して、小児の発達を支援する看護方法を学修する。 子どもの健康の保持増進・予防、急激な健康破綻と回復、慢性期、エンドオブライフにある子どもと家族の健康課題を実践するために、小児看護の役割や専門性、小児各期の成長・発達の特性、子どもの成長発達段階に合わせた生活援助方法と看護過程の展開方法を学修する。	1. 子どもを取り巻く地域・社会における健康課題を説明できる。 2. 病気や入院が子どもと家族に与える影響について説明できる。 3. 成長・発達段階に合わせた生活援助方法について説明できる。 4. 急性期、慢性期、終末期にある子どもと家族の特徴を理解し、必要な援助方法を説明できる。 5. 看護実践を行うために必要なアセスメントを行い、子どもと家族への看護過程の展開方法と臨床判断のプロセスについて説明できる。	○		○	◎	○	
38	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	吉田	藤村 柴 小岡	社会資源活用支援論	将来、保健医療福祉チームの一員として地域社会に貢献できる看護職となるために、互助力を高める看護方法、対象者に応じた制度の活用方法を、具体的実践やグループワークを通して学修する。そのためには、社会資源の定義やその活用における看護の役割、自発的な相互の支えあいがある人生・生活の質を豊かにすることについての理解を深める。	1. 社会資源の活用における看護の役割を述べることができる。 2. 互助の重要性と互助力を高める方法について説明できる。 3. 対象者に応じた制度の活用方法について説明できる。				○	◎	
39	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	柴	陶山 木原 道雄	社会的障壁と看護	障害や難病等をもつ人々の事例や交流による自らの経験等を通じて、人々が地域で暮らすことへの障壁となる社会の実情、関連する制度・法律、保健福祉の意義や看護の課題について学修する。 地域特性や社会資源を看護に活用するために、医療、就労、教育、経済、住まいなど多次元にわたって社会的に脆弱な立場にある人々の状況と社会的包摂の概念を理解する。	1. 脆弱な立場にある人々の多次元にわたる社会的脆弱性の要因を説明できる。 2. 脆弱な立場にある人々を対象とする法律や権利擁護、地域生活支援事業等について説明できる。 3. ノーマライゼーションや社会的包摂の概念を踏まえ、脆弱な立場にある人々の社会参加の方法への配慮や具体策、看護における課題を考察できる。 4. 地域特性や利用可能な社会資源を把握し、看護実践に効果的に活用する視点を示すことができる。 5. 新たな社会資源の創出や多分野連携を検討できる。	○	○			◎	

科目No	科目区分	科目群	科目担当者		授業科目	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	ディプロマポリシーの到達度					
			責任者	他担当者				1. 人の暮らしを当事者目線で理解する能力	2. 倫理的な能力と対話能力	3. 気づく能力と思考する能力	4. 人の一生の暮らしを支える看護を実践する能力	5. 人の暮らしを地域に活かす能力	6. 不断に看護を学び続ける能力
40	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	柴	鈴木 正幸	地域奉仕活動演習	地域の互助活動に参加し、地域社会に暮らす人々とのコミュニケーションを図ることを通じて、人の暮らしを支える地域奉仕活動について学修する。人々の地域での健康的な暮らしを互助を活用して支えるために、人々の価値観や自律性を尊重した互助活動のあり方について自らの体験から考察する。	1. 奉仕活動の理念について説明できる。 2. 身近な地域で展開されている奉仕活動の種類、活動主体、活動理念を説明できる。 3. 身近な地域で展開される奉仕活動に参加し、地域の人々とコミュニケーションをとりながら医療職を目指す者としての責任感と倫理的態度を身に着ける。 4. 自らの体験をもとに、人々の価値観や自律性を尊重した互助活動のあり方と課題について自分の考えを論述できる。	○	○			◎	
41	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	山内		多職種連携支援論	医学、薬学、臨床検査学を学ぶ学生とのチーム学習や事例演習を通して、人の暮らしを支えるうえで不可欠な多職種連携について学修する。 保健医療福祉チームの一員として多職種と協働・連携して対象を支援するために、多職種連携の意義、方法、課題を理解する。	1. 多職種連携の意義、方法を説明できる。 2. 他職種の役割を説明できる。 3. 看護の視点でとらえた事例患者の問題や支援方法を、他職種を学ぶ他学科の学生に説明できる。 4. 多職種連携の課題を自分の言葉で論述できる。				○	◎	
42	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	宮内 吉田	柴 西山 森貞	健康課題別看護実習Ⅰ：A健康増進支援実習/B女性健康支援実習	地域社会のさまざまな施設（地域包括支援センター、医療機関、助産院等）において、妊婦、産婦、褥婦、新生児、成人、高齢者、およびその家族の特徴を理解した上で、対象把握や健康課題のアセスメントにもとづいて、対象者およびその家族が健康を保持増進するためのセルフケア能力、ならびに人々の連続した主体的な健康へのセルフマネジメントを高めるための看護支援方法について学修する。 人々が地域で望む暮らしを実現するためのニーズを踏まえ、各発達段階に応じた主体的な健康の保持増進、ならびに人々が自らの健康をコントロールし疾病を予防するための看護支援方法について考察する。	A健康増進支援実習 1. 地域包括支援センターの対象となる高齢者やその家族の健康課題やニーズについて、生涯発達の視点から説明できる。 2. 成人・高齢期の健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護支援について具体的に説明できる。 3. 地域包括支援センターで行われている他職種と協働した看護支援について説明できる。 4. 地域包括支援センターにおける予防的看護支援について説明できる。 5. 暮らしの中で営まれる人々の連続した主体的な健康の保持増進活動を支援する看護職の役割について自分の言葉で説明できる。 B女性健康支援実習 1. 妊婦、産婦、褥婦、新生児およびその家族の健康状態を総合的に判断し、立案した看護計画をもとに看護を実施、評価できる。 2. 妊婦、産婦、褥婦、新生児およびその家族への看護実践を通して、必要な基本的看護技術を習得できる。 3. 妊婦、褥婦、新生児およびその家族が地域において生活していく上で必要な看護を行い、継続看護の視点で看護の役割について説明できる。 4. 女性のライフステージにおける性と生殖における健康状態を判断し、ライフサイクルの視点で看護の役割について説明できる。 5. 女性の性と生殖における健康の保持増進、疾病予防において看護が果たす役割について述べることができる。	○	○	○	◎	○	
43	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	山内 小岡	陶山 山下 達川 竹井 中野 鳥谷 三瀬	健康課題別看護実習Ⅱ：A生命危機支援実習/B生活再構築支援実習	周手術期にある人、急性疾患の発症や外傷により重篤な状況にある人、回復過程にありリハビリテーションを必要とする人および、それらの人々の家族に対する看護を実践または見学することで、急激な健康破綻とそこから生活の再構築を体験する人の支援のあり方を学修する。 急激な健康破綻をきたした人が生命の危機的状況に陥り、そこから脱却・回復し、望む生活を再構築していくという一連の過程を支えるために、患者とその家族の特徴を踏まえて看護の要点を理解する。	A生命危機支援実習 1. 周手術期にある人、急性疾患の発症や外傷により重篤な状況に陥った人と家族に対して回復を促す援助、重篤な状況にある人や急性症状のある人の生命維持の援助を、一連の回復過程を視野におきながら実施できる 2. 手術や急性疾患の罹患などにより急激な健康破綻をきたした人と家族の特徴を自分の言葉で説明できる 3. 手術や急性疾患の罹患などにより急激な健康破綻をきたした人と家族に対する、生命の危機的状態からの脱却と回復を促進する看護の要点を自分の言葉で説明できる B生活再構築支援実習 1. 回復過程にありリハビリテーションを必要とする人との援助的人間関係を形成することができる。 2. 障害をもち回復過程にある人とその家族の心身の状況をアセスメントし、生活を再構築するために必要な、身体の機能回復や障害受容促進し生活機能を再獲得するための援助方法を計画・実施・評価することができる。 3. 対象の生活環境の特性と生活を再構築するための多職種の連携、社会資源の活用法の在り方を理解し、看護師の役割について説明できる。	○	○	○	◎	○	

科目No	科目区分	科目群	科目担当者		授業科目	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	ディプロマポリシーの到達度					
			責任者	他担当者				1. 人の暮らしを当事者目線で理解する能力	2. 倫理的な能力と対話能力	3. 気づく能力と思考する能力	4. 人の一生の暮らしを支える看護を実践する能力	5. 人の暮らしを地域性を活かす能力	6. 不断に看護を学び続ける能力
44	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	二井谷 柴 吉田	山下 竹井 中野 井上 西山	健康課題別看護実習Ⅲ：Aセルフマネジメント支援実習（成人）/Bセルフマネジメント支援実習（精神）/C地域生活支援実習	慢性・不可逆的な疾患、障害をもつ人とその家族に対する、さまざまな療養の場での看護実践または見直し、多角的な観点から病いもちながら地域で暮らしの支援のあり方を学修する。 慢性・不可逆的な疾患、障害をもつ人が生活や病いとともに生きてきた体験の中で培った強みを活かしながらセルフマネジメントし、豊かに自分の暮らしを営んでいくことを支えるために、患者とその家族の特徴を踏まえて看護の要点を理解する。	Aセルフマネジメント支援実習（成人） 1. 対象者の疾患の特徴と治療経過、疾病が対象者とその家族の生活や人生にどのように影響しているか理解することができる。 2. 対象者の疾病認識と自己管理の状況、検査値等からセルフマネジメントの現状と課題をアセスメントできる。 3. アセスメントから対象者の看護上の問題を明確にし、問題解決につながる看護計画を立案することができる。 4. 立案した看護計画を実践し、その効果を評価・修正することができる。 5. 看護実践をとおして、慢性疾患患者とその家族に対する効果的な看護について考察することができる。 Bセルフマネジメント支援実習（精神） 1. 精神疾患をもつ人とのコミュニケーションにおいて自己を治療的に活用し、その意図的な場面について洞察することができる。 2. 精神疾患をもつ人と家族のセルフマネジメントの方法や新たなニーズについて考察することができる。 3. 精神疾患をもつ人のストレスを引き出す関わりを通じて、対象者のリカバリーのプロセスを推察することができる。 C地域生活支援実習 1. 訪問した慢性・不可逆的な健康課題を有する在宅療養者と家族のニーズを捉えることができる。 2. 訪問した在宅療養者とその家族の健康課題や介護上の課題について述べるができる。 3. 訪問した在宅療養者と家族の支援方法を考察できる。	○	○	○	◎	○	
45	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	陶山	小岡 吉田 西山 鳥谷	健康課題別看護実習Ⅳ：エンドオブライフ支援実習	死が差し迫った人やそう遠くない将来に死が訪れる人とその家族に必要な看護実践あるいは見直し、エンドオブライフ・ケアについて学修する。 エンド・オブ・ライフにある人が自律した存在として生活できるよう、意思を最大限に尊重し、日常を整え、全人的苦痛を緩和する看護を行い、その自身の看護実践に基づいて最期までその人らしく生きることを支える看護のあり方について考察する。	1. エンド・オブ・ライフにある受け持ち対象者の日常生活の様子、援助に対する反応、語り、あるいはその人について看護師や家族から収集した情報をもとに、「その人らしさ」（生き方、最期の過ごし方、大切な生活行動など）を見出すことができる。 2. エンド・オブ・ライフにある受け持ち対象者やその家族に対して、意思を尊重しながら、日常を整える援助、全人的苦痛を緩和する援助を実施できる。 3. 目標1と2をもとに、最期までその人らしく生きることを支える看護のあり方について、自分の言葉で説明できる。	○	○	○	◎	○	
46	専門科目	健康課題別の暮らしの支援科目	薬師神	井上	健康課題別看護実習Ⅴ：小児発達支援実習	疾患をもつ子どもと家族を対象に看護実践し、子どもの発達段階や健康レベルに応じた看護を学修する。 子どもの最善の利益を守る看護を実践するために、子どもの成長発達を促進し、子どもと家族がもつ最大限の力を引き出すセルフケアの援助方法を学修する。	1. 臨床現場において、子どもの成長・発達と日常生活を理解し、健康障害を持つ子どもの看護援助を行うためのアセスメント能力を習得できる。 2. 健康障害を持つ子どもの看護を立案・実践・評価する看護の基礎的能力を習得する。 3. 子どもが家庭や地域で暮らし、成長・発達するために必要な家族のマネジメント力を活かした家族支援を実践できる。	○	○	○	◎	○	
47	専門科目	暮らしを支える看護を深める科目	相原	曾我部 恵子	看護リーダー論	将来的に地域のリーダーとして看護を牽引することを意識しながら、保健医療福祉チームの一員としての看護管理の在り方について学修する。 地域で暮らしを支える保健医療福祉チームの一員としての役割を果たすと同時に、将来的に地域の看護を牽引するために、組織が効率的、効果的に機能することを促進するマネジメント能力やリーダーシップを身につける。	1. 地域を視野に入れた組織活動について説明できる。 2. 看護におけるマネジメントの重要性について説明できる。 3. チーム医療における看護職の役割やリーダーシップについて説明できる。 4. 医療安全の重要性について説明できる。 5. 災害時の看護のリーダーとしての役割を説明できる。					○	◎
48	専門科目	暮らしを支える看護を深める科目	永田	相原 城賀本 山下 竹井 中野 井上 西山 鳥谷 森貞	統合演習	実習体験の振り返りや意見交換を中心としたグループワークを通じて、チーム医療における多職種連携・協働及び意思決定支援への対応について学修する。 保健医療福祉チームの一員として対象者の自律性を尊重した看護を実践するために、チーム医療において看護師に必要な知識・技術・態度について検討し、自身の看護師としてのあり方について考察する。	1. 課題となる場面を分析し、現象の中の問題の所在と問題が生じた理由は何かを検討し、解決策について自分の意見を述べるができる。 2. 課題となった場面を解決するために必要な看護職の知識・技術・態度について説明することができる。 3. 自らの実践を振り返り、看護師としてのあり方について自身の考えを述べることができる。	○	○	○	○	◎	○

科目No	科目区分	科目群	科目担当者		授業科目	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	ディプロマポリシーの到達度					
			責任者	他担当者				1. 人の暮らしを当事者目線で理解する能力	2. 倫理的能力と対話能力	3. 気づく能力と思考する能力	4. 人の生涯の暮らしを支える看護を実践する能力	5. 人の暮らしを地域性を看護に活かす能力	6. 不断に看護を学び続ける能力
49	専門科目	暮らしを支える看護を深める科目	陶山 藤村	川口 宮内 山内 業師神 相原 永田 二井谷 柴 吉田 小岡 城賀本	暮らしの支援実習Ⅱ	学生の関心のある発達段階・健康レベルにある対象者や看護実践の場を選択し、対象者とのコミュニケーションや専門職による援助場面の参加観察を通じて、地域で健康課題を抱える人が望む生活を実現するために必要な看護実践について学修する。 対象者の意思決定支援や地域の特性に応じた社会資源の活用に基づき、その人の望む地域での暮らしを支える看護を実践するために、地域で暮らす人の継続看護の視点を含めた看護ニーズや看護の役割・機能とその課題について考察する。	1. 対象者とのかかわりを通じて、地域で暮らすためのニーズを多角的な視点で説明することができる。 2. 対象者が望む暮らしを実現するために意思決定支援のあり方について説明できる。 3. 対象者のニーズ満たし望みを叶えるために必要な社会資源や多職種・他機関の協働・連携について、現状と課題を説明できる。 4. 対象者の看護ニーズを明らかにし、必要な看護を実践、評価できる。 5. 自らの看護実践を振り返り、地域での暮らしを支える看護職としてあり方を自分の言葉で説明することができる。	○	○	○	◎	○	○
50	専門科目	暮らしを支える看護を深める科目	二井谷	藤村	健康危機管理論	健康危機管理の理念や関係する法律の理解、事例演習やグループワークを通じて、健康危機管理において保健医療福祉の多職種で構成されるチームの中で看護職が果たすべき役割や、地域で暮らす人々をその地域の特性を活かして支援する方法を学修する。 看護の対象となる人々の生命を守り、健康危機発生時の健康生活の被害を最小限にとどめ、将来、多職種チームの一員として看護実践していくために、平常時の備えと看護職の役割、地域で暮らす人々が自助や互助により健康危機発生予防や発生時の対応を実践できるための社会・文化・経済的な地域特性や社会資源を活用した看護活動を理解する。	1.地域で暮らす人々を対象とした健康危機管理の定義、健康危機管理の4つの側面、看護職の役割について説明することができる。 2.地域における平常時の備えと健康危機発生時の対応について説明することができる。 3.施設内と地域における感染症対策について、その目的と方法を説明することができる。また、感染症発生時の事例演習を通して保健医療福祉の多職種で構成されるチームの中で看護職が果たすべき役割について考察することができる。 4.災害の歴史、定義、種類、災害サイクル、法律・制度、災害発生時の対応やしきみなどを包括的に説明することができる。 5.災害サイクル各期の特徴と健康問題、災害看護の役割と具体的な活動について説明することができる。 6.災害急性期の医療機関、ならびに災害復興期の地域の避難所における社会・文化・経済的な地域特性や社会資源をとらえ、その地域の特性を活かした看護活動の事例演習を通して、災害時に必要とされる看護について考察することができる。			○	○	◎	
51	専門科目	暮らしを支える看護を深める	川口		看護英語	医療を必要とする外国人患者の事例を通じて、看護職としての英語での基礎的な支援方法を学修する。 医療チームの一員としてさまざまな健康課題や療養上の不安をもつ外国人患者等への看護介入をするために、人々の多様な価値観や地域の生活文化的背景を尊重したコミュニケーションについて考察する。	1. 医療チームの一員として、英語での看護介入を必要としている対象の健康レベルや医療の場に即した対応や配慮ができる。 2. 英語での看護介入を必要としている対象が暮らす/暮らしていた地域の環境や文化的背景、宗教上の制約などを説明できる。	○	○			◎	
52	専門科目	暮らしを支える看護を深める	相原	柴	看護研究Ⅰ	看護研究のプロセスを概観することを通じて、看護における研究の定義と意義、目的の基本的な考え方、研究における倫理的配慮の必要性について学修する。これまでの看護や生活体験、およびそれらに関する研究の動向を探る文献を読み、建設的なクリティックを行う体験を通じて、リサーチエッセイを焦点化する方法を学修する。	1. 研究の定義と意義を説明できる。 2. 研究のプロセスを説明できる。 3. 文献のクリティックを行う。 4. 研究における倫理的配慮の必要性が説明できる。 5. リサーチエッセイを焦点化する。	○	○	○		○	◎
53	専門科目	暮らしを支える看護を深める	相原 柴	川口 宮内 藤村 業師神 山内 陶山 二井谷 永田 小岡 吉田 城賀本	看護研究Ⅱ	これまでの看護および生活体験から得たリサーチエッセイをもとに研究のプロセスをたどることで、看護研究について学修する。 将来、看護の課題を科学的な根拠をもとに解決していくために、看護研究の意義や方法を理解する	1. リサーチエッセイと研究の意義について説明できる。 2. 研究計画書を作成できる。 3. 倫理的な配慮をもとに、研究を実施できる。 4. 研究で得られた結果について、看護実践と関連づけて考察できる。	○	○	○	○	○	◎

科目No	科目区分	科目担当者		授業科目	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	ディプロマポリシーの到達度					
		責任者	他担当者				1. 人の暮らしを当事者目線で理解する能力	2. 倫理的な能力と対話能力	3. 気づく能力と思考する能力	4. 人の一生の暮らしを支える看護を实践する能力	5. 人の暮らしを地域に活かす能力	6. 不断に看護を学び続ける能力
54	専門科目	二井谷	榎垣 高史 佐藤 格夫 川本 能一 長野 敏宏 山内 千由紀	愛媛県における医療連携の取り組みの実際を通して、地域での暮らしの支援の在り方を学修する。 将来、山間部や島嶼部が点在する地域や原子力発電所が立地する地域のニーズに対応した支援の充実を図っていくために、地域医療の課題と看護の役割を考察する。	1. 山間部や島嶼部での暮らしを支える本学附属病院の医療連携の取り組みの実際を説明できる 2. 原子力発電所が立地する地域での暮らしを支える本県の医療連携の取り組みの実際を説明できる 3. 山間部や島嶼部が点在する地域や原子力発電所が立地する地域の医療のニーズと課題を自分の言葉で説明できる 4. 山間部や島嶼部が点在する地域や原子力発電所が立地する地域での暮らしを支える看護の役割を自分の言葉で説明できる	○				○	◎	
55	専門科目	宮内	江口 真理子	遺伝学の基礎知識や遺伝子疾患、遺伝/ゲノム医療の学修を通して、遺伝における課題や対象のニーズを探究する。今後の遺伝/ゲノム医療の発展、対象をとりまく地域包括支援に対応するために、看護職の役割を考察する。	1. 日本における遺伝/ゲノム医療の現状と課題を説明できる 2. 遺伝の理解に必要な知識について説明できる 3. 遺伝に悩む対象が抱えている課題やニーズについて説明できる 4. 遺伝医療に孕む人権やプライバシー保護などの倫理上の課題について説明できる 5. 遺伝/ゲノム医療における看護の役割について自分の言葉で説明できる	○	○				◎	
56	専門科目	山内		医療被害者の体験の聴取や書籍等の調査、討議等を通して、看護者として医療被害にどう向き合っていくかを学修する。 医療被害の再発予防や被害者の支援を将来的に実践していくために、被害者の立場から医療被害という問題について、看護者として医療被害の再発防止や被害者の支援にどう向き合うかを考察する。	1. 薬害被害、B型肝炎感染被害という2つの医療被害について、医療被害に関する制度を含めて概説できる 2. 薬害被害者、B型肝炎感染被害者や家族の抱える苦しみ、それらと社会との関連を自分たちの言葉で説明できる 3. 上記2をもとに、医療被害という社会問題の本質、再発防止の対策および被害者支援のあり方について自分の考えを論述できる	○	○				◎	
57	専門科目	城賀本		先進医療の実際に関する探求学修を通して、先進医療における看護について学修する。 今後、さらに医療技術が発展することが予想される時代に看護の専門性を発揮するために、最先端の医療技術を提供する先進医療における看護の役割を考察する。	1. 我が国の先進医療の現状を説明できる 2. 先進医療の長所・短所および課題を説明できる 3. 諸外国の先進医療と看護の実際を概説できる 4. 先進医療における看護の役割を自分の言葉で説明できる	○			○		◎	
58	専門科目	柴	永田 篠原 直樹	看護分野におけるIT(Information technology)の活用に関する探求学修を通して、ITを活用した看護を学修する。 今後、さらに加速する情報・科学技術の導入に合わせて看護の充実を図ることができるよう、ITを活用した看護の在り方について考察する。	1. 医療情報活用の基盤として医療・看護情報の電子化、情報の二次利用、標準化の重要性を理解する (IT-02-02, 03-01, 05-01) 2. 倫理的・法的・専門的基準および組織の方針に基づき、情報通信技術を用いて安全かつ適切に看護ケアを実践できる (IT-01-02, 04-01) 3. ICTを活用し、正確なデータ入力と効果的なコミュニケーションを実践できる (IT-03-01, 05-01) 4. 情報システムや機器の特性を理解し、システム上の問題やエラー発生時に組織の手順に従って適切に対応・報告できる (IT-02-02) 5. 遠隔コミュニケーションやソーシャルメディアを含む情報発信において、医療者として適切な方法を選択し実践できる (IT-04-01) 6. 医療DXの観点から新たな情報・科学技術の効果と課題を理解し、看護実践やシステムの発展について自身の意見を述べる事ができる (IT-04-02)	○			○		◎	
59	専門科目	二井谷		書籍の輪読を通して、現代の看護が抱える課題を学修する。 将来、地域のリーダーとして人の暮らしを支える看護を変革していくために、先人から託された現代の看護の課題と解決の方略を考察する。	1. 看護の課題に関する文章を読み、自分の体験をもとに、解釈できる 2. 看護の課題に関する解釈を伝え合い、意見を交わすことができる 3. 現在の看護の課題をどのように解決していけるのか、解決するためには何が必要かについて、自分の考えを結論付けることができる		○			○	◎	

科目No	科目区分	科目群	科目担当者		授業科目	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	ディプロマポリシーの到達度					
			責任者	他担当者				1. 人の暮らしを当事者目線で理解する能力	2. 倫理的な能力と対話能力	3. 気づく能力と思考する能力	4. 人の生涯の暮らしを支える看護を实践する能力	5. 人の暮らしを地域性を看護に活かす能力	6. 不断に看護を学び続ける能力
60	専門科目	暮らしを支える看護を深める科目	薬師神	ルース・バージン	国際交流看護研修	アジアや北米に住む人々との交流、ならびに保健医療に関する研修・見学を通して、各国の医療・健康に対する価値観や制度の特徴を理解し、国際社会における看護の役割をグローバルな視野から学修する。異なる文化的背景をもつ人々との交流に必要な異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに、海外の看護実践と日本の看護を比較検討することで、日本の看護ケアの特徴を具体的に説明できる。	1. 異なる文化的背景を持つ人々と関わるために必要な異文化コミュニケーションスキルについて説明できる。 2. 異文化交流を行う上で必要となる英語でのプレゼンテーションスキルを獲得できる。 3. 海外の医療・保健システムや医療・保健事情を学び、国際社会において看護が担う役割について説明できる。 4. 海外または国内に住む外国人の暮らしを支える看護職としてのあり方を説明することができる。	○	○				◎
61	専門科目	暮らしを支える看護を深める科目	陶山	小岡 達川 吉田 西山 鳥谷	地域医療看護実習	健康問題を持ちながら山間へき地で暮らす人々やそれを支える専門職との関わりや他学年・医学生との意見交換を通して、山間へき地の地域包括ケアや地域医療について学修する。人の暮らし地域の特性を活かし地域医療の課題に取り組むために、山間へき地で暮らす人や社会資源の特性から地域で暮し続けるためのニーズやニーズを充足するための方策を考察することができる。	1. 健康問題を持ちながらも、住み慣れた山間僻地で暮らし続ける人の思いや暮らし方の特徴について説明できる。 2. 山間僻地で暮らす人の地域とのつながりや暮らしを支える社会システムについて説明できる。 3. その人の望みを実現し、住み慣れた地域で暮らし続けるための課題を抽出し、解決のために必要な社会資源の活用や新たな社会資源の必要性を考察できる。 4. 地域包括ケアシステムにおける多機関・多職種連携・協働について理解し、地域医療における看護の役割・機能について考察できる。	○				◎	○
62	専門科目	養護教諭科目	薬師神 (授業担当無し)	宮内 圭代 井上 睦美	食育学	養護教諭に必要な栄養学に関する基礎的な知識と子どもが豊かな人間性を育み、生きる力を身につけていくための「食育」の推進の重要性や栄養教育の目的・方法について学修する。また、学校における食育の重要性や健康や疾病と食生活との関連性を正しく理解し、現代の子ども達の食生活の変化、アレルギーや生活習慣病を持つ子どもの食生活について考察する。	1. 子どもの体づくりに必要な栄養素が体内でどのように代謝されるかを理解することで、各栄養素の意義を科学的に述べることができる。 2. 食教育の目的・方法について具体的に述べる。 3. 食に関する教育の意義と重要性について説明できる。 4. 食に関する指導の実際について具体的に述べる。 5. 生活習慣病、アレルギーや疾患を持つ子どもの食事と生活について関係づけることができる。		◎				
63	専門科目	養護教諭科目	薬師神 (授業担当無し)	三並 めぐる	養護概説	学校保健活動および学校安全活動の意義と養護教諭の職務を理解し、児童・生徒・教職員の健康の保持増進を支援する方法について学修する。地域の中にある学校での養護教諭の役割を理解し、教職員・関係機関・関係職種間で信頼関係を構築する必要性について考察する。	1. 養護教諭の専門性と職務について理解でき、説明できる。 2. 児童生徒等の現代的健康課題および健康の保持増進と学校での安全と危機管理について理解でき、説明できる。 3. 保健室経営に必要な知識を身につけ、保健室経営計画と作成ができる。 4. 学校保健に関わる関係機関・関係職員・地域・家庭との適切な多職種連携の重要性と学校組織活動について理解し、養護教諭の専門性について説明できる。 5. 自己の養護教諭像をもてるようになる。		○		◎		
64	専門科目	養護教諭科目	薬師神 (授業担当無し)	井上 睦美	学校保健総論	学校保健の歴史と構造や関連法規を理解し、学校における健康課題や保健管理、保健教育、安全管理、保健組織活動等の概要について学修する。また、身体及び心の発達から子どもの現代的健康課題と学校保健の役割を理解し、チームとして学校で取り組む学校保健活動について学修する。学校保健の構造ならびに子どもの健康管理と健康教育の必要性、他職種と協働した「チーム学校」としての取り組みを理解し、養護教諭が取り組む学校保健活動の課題や他職種と協働しながら地域保健との連携の在り方を学び、養護教諭の役割や専門性について考察する。	1. 学校保健の歴史と構造、学校保健安全法、学校保健行政を理解し、学校における保健教育の役割と重要性について説明できる 2. 子どもをとりまく環境の変化や現代的な健康課題への対応など、学校保健に関わる最新の動向について説明できる 3. 現代の子どもの健康課題を解決するために、養護教諭の役割と学校保健と地域保健の連携・協働について説明できる 4. 養護教諭が行う学校保健活動の意義と養護教諭の役割と専門性について自分の考えを述べるができる			○	◎	○	

科目No	科目区分	科目群	科目担当者		授業科目	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	ディプロマポリシーの到達度					
			責任者	他担当者				1. 人の暮らしを当事者目線で理解する能力	2. 倫理的な能力と対話能力	3. 気づく能力と思考する能力	4. 人の一生の暮らしを支える看護を实践する能力	5. 人の暮らしを地域に活かす能力	6. 不断に看護を学び続ける能力
65	専門科目	保健師科目	藤村	井原 康貴	看護統計学	科学的な思考の基盤の一つである記述統計学に関する基本的知識と、根拠に基づいた看護（Evidenced Based Nursing）の実践に必要な推測統計について学修する。記述統計学と推測統計学の基本的な概念を理解し、医療や看護の場面で応用できるスキルを身に付ける。	1. 統計学の基本的な概念について説明できる。 2. データの種類について説明できる。 3. 測定方法とデータの種類に対応について説明できる。 4. データの要約、記述統計について説明できる。 5. 記述統計と推測統計の違いについて比較しながら列記できる。 6. 統計学における推定と検定の考え方や方法を説明することができる。 7. 統計手法の種類と内容を説明することができる。 8. データの種類と目的から、適切な統計手法を選択することができる。 9. 看護学・保健学分野における量的研究の結果の読み取りや解釈ができる。 10. EZR等の分析ツールを活用して、データの整理、基本統計量の求め方、グラフなどをを用いた表現ができる。 11. EZR等の分析ツールを活用して、適切な推測統計・検定を実施することができる。			◎			
66	専門科目	保健師科目	藤村	達川 井原 康貴	疫学	人間集団を対象として疾病の原因を解明し予防するための学問である疫学について学修する。 根拠に基づいた医療（Evidenced Based Medicine）や根拠に基づいた看護（Evidenced Based Nursing）において基盤となる疫学的手法について理解する。	1. 疫学とは何かについて説明できる。 2. 疾病の発生頻度の指標について説明できる。 3. 疾病とリスクファクターの関連性、効果の指標について説明できる。 4. 疫学研究のデザインについて説明できる。 5. バイアスの種類、交絡と対処方法について説明できる。 6. スクリーニングや検査の性能評価の指標（感度、特異度等）について説明できる。 7. 疫学における倫理について説明できる。	◎		○			
67	専門科目	保健師科目	藤村		公衆衛生看護学	公衆衛生看護の理念と目的、倫理、歴史を踏まえた上で、ヘルスプロモーションを推進する保健師の専門性と基盤となる理論を通して、公衆衛生看護活動で用いる技術の基本的内容を学修する。すべての住民が健康で安心して生活が営めるために必要な各種の社会サービスの質保障に向けた公衆衛生の取り組みやそれらの質を担保する看護専門職としての保健師のあり方を考察する。	1. 公衆衛生看護の理念と目的について説明できる。 2. 公衆衛生看護の歴史的発展過程について述べる事ができる。 3. ヘルスプロモーションを推進する保健師の基盤となる理論について説明できる。 4. 保健師活動で用いる技術について説明できる。 5. 保健福祉サービスの質保障に向けた公衆衛生の取り組みについて述べる事ができる。 6. 保健師のあり方や役割についての自らの考えを述べる事ができる。				◎	○	
68	専門科目	保健師科目	藤村	達川	公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	個人・家族・集団や地域の健康状態をアセスメントする過程、地域住民や関係者との協働や地区組織活動、コミュニティエンパワメントの技術について、乳幼児健診・特定健診・介護予防事業等から得られる地域情報を通して、具体的に学修する。 人々が主体的に健康の向上に取り組むための保健指導の基本的な考え方と活動、個人・家族・集団を対象とした働きかけや組織的な解決、ライフステージに応じた保健活動の展開方法について考察する。	1. 個人・家族・集団を対象とした看護方法や技術が説明できる。 2. 組織化、地域ケアシステムづくりにおける市町村保健師の役割が説明できる。 3. 市町村行政における看護活動の内容が説明できる。 4. 地域住民や多領域の人々との連携・協働の実際が説明できる。 5. 地域保健活動に貢献するための自らの役割と看護の専門性について論述できる。			○	◎	○	
69	専門科目	保健師科目	藤村	達川	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	地域の健康水準を高めるために、組織体制や法律を理解した上で、組織の中でどのように課題を施策につなげていくかについて、感染症や難病支援、地域精神保健対策の地域事例を通して、エビデンスに基づいた地区活動の展開方法について学修する。個人・家族・集団を対象とした働きかけや組織的な解決や地域ケアシステムの構築を意図した活動の展開方法を考察する。特に地域における公衆衛生の第一線機関である保健所が取り扱う高い専門性が要求される健康課題に対する組織的ケア、地域ケアシステムについて考察する。	1. 個人・家族・集団を対象とした看護方法や技術が説明できる。 2. 組織化、地域ケアシステムづくりにおける保健所保健師の役割が説明できる。 3. 保健所行政における看護活動の内容が説明できる。 4. 地域住民や多領域の人々との連携・協働の実際が説明できる。 5. 地域保健活動に貢献するための自らの役割と看護の専門性について論述できる。			○	◎	○	

科目No	科目区分	科目群	科目担当者		授業科目	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	ディプロマポリシーの到達度						
			責任者	他担当者				1. 人の暮らしを当事者目線で理解する能力	2. 倫理的能力と対話能力	3. 気づく能力と思考する能力	4. 人の生涯の暮らしを支える看護を実践する能力	5. 人の暮らしを地域に活かす能力	6. 不断に看護を学び続ける能力	
70	専門科目	保健師科目	藤村	達川三瀬	健康政策形成論	わが国の保健福祉制度について、地域保健法、健康増進法、老人保健法、介護保健法を中心に現状と課題の分析を通して、将来展望について学修する。日本人が直面してきた健康課題とその対応を通して、看護師・保健師の役割としてどのようなことができるのかを考察する。各種制度の概要の理解とともに、現在の健康課題に対し今後どのような政策を立てることが保健福祉の立場から重要なのか、公衆衛生看護の観点から考えることのできるスキルを身につける。	1. わが国の保健福祉行政の概要を理解し、これまでの変遷について述べることができる。 2. 地域保健法と健康増進法の概要を理解し、公衆衛生活動の内容について述べることができる。 3. わが国の医療保険制度の概要を理解し、国民皆保険の意義とそれがもたらす最近の問題点を説明できる。 4. わが国における老人保健法の概要を理解し、高齢者医療確保法へと改正された経緯を説明することができる。 5. 介護保険制度の成り立ちと概要を理解し、その意味を考察する。 6. 現在行われている医療制度改革の概要を理解し、後期高齢者医療制度等の内容を説明することができる。 7. ヘルスプロモーションが発展してきた経緯を理解し、健康づくり計画の考え方と実践について説明することができる。 8. わが国の福祉行政について理解し、高齢者福祉、難病・障害者対策等の内容を説明することができる。				○	◎		
71	専門科目	保健師科目	藤村	達川三瀬 前田 真	健康サービス開発・評価論	コミュニティに対する看護介入を示すコミュニティ・アズパートナーモデル及び1歳6か月児健康診査事例のロールプレイを通して、実習予定市町における地域のヘルスニーズの Assessment のプロセス、地域保健計画の策定方法、地域の健康危機管理を学修する。地区診断から保健計画の作成・実施・評価の過程を演習し、地域特性を踏まえた健康政策の展開方法について考察する。	1. 地域看護診断の基礎知識を身につけ、展開方法が説明できる。 2. 地域保健計画の策定方法が思考でき、理論的に判断し、説明できる。 3. 住民、多領域の人とともに地区活動計画を作成する必要性が説明できる。 4. 一定の地域を対象に既存資料や地区踏査などの情報から疫学的手法を用いて、ヘルスニーズを Assessment し、地区活動計画の作成ができる。 5. 地域看護管理として健康危機への対応の必要性和方法が説明できる。 6. 地域のヘルスニーズを把握するための1つの手段として1歳6か月児健康診査の間診から対象者のニーズが把握できる。					○	◎	
72	専門科目	保健師科目	藤村	達川三瀬	公衆衛生看護学実習	学内実習、保健所・市町実習、学校保健実習を通して、住民のライフステージの応じた健康課題や健康支援の実践、関係機関の働きとその連携の実際を体験し、地域における看護職の役割を学修する。学生が将来、公衆衛生看護の実践活動を行い、実践活動を発展させるための基礎を身につけることを目的とする。そのため、今まで学んだ理論の実践活動への応用、実際の活動の場面で生じる様々な事象の意味づけ、理論と結びつけた考察等を行う。	1. 地域における保健活動実践を通し、地域の健康課題を把握し、自ら考え、将来を予測し、予防的な看護が実践できる能力を身につける。 2. 講義等で学習した公衆衛生看護学の理論が実際の活動でどのように展開されているかが理解できる。 3. 住民や生活者主体の公衆衛生看護の思考過程と活動の手法が説明できる。 4. 公衆衛生看護に貢献できる能力と関心の幅を広げ、実践を通して自らの専門性を探究するための基礎を身につける。 5. 地域住民の健康の保持増進に寄与するために予防的、総合的観点から方策が提示できる。				○	◎	○	
73	専門科目	保健師科目	藤村	達川三瀬	産業保健実習	保健所・市町実習、学校保健実習での学びを踏まえ、働く世代の人々の健康を支える組織における実習を通して、人々のライフステージや職業生活に応じた健康課題や健康支援の実践、関係機関の働きとその連携の実際を体験し、産業保健分野における看護職の役割を学修する。働く世代の人々の健康を支える企業等の産業保健部門や健診機関及び、企業や自治体の健康づくりを支援する組織における保健活動や業務に参加し、体験的に学修することにより、様々な世代の健康を保持増進するための体制や保健活動、多職種連携について考察するとともに看護の役割・機能とその課題について考察する。	1. 実習施設の概要・健康管理組織・法的根拠・支援のための体制・メンバーについて説明できる。 2. 実習施設で体験する事業や保健活動の場面を通して、それらが人々の健康へどのように貢献しているか、個別支援・グループ支援・組織的対応の観点から説明できる。 3. 対象者に必要な社会資源、多職種・他機関の協働・連携について現状と課題について説明できる。 4. 実習施設が支援の対象とする可能性のある1事例に対して、情報の Assessment を行い、支援計画を立案し、指導者に説明できる。 5. 様々な実習施設における体験を共有し、話し合うことで、保健活動における課題や多職種連携の実際、看護の機能や役割について自分の言葉で説明することができる。				○	◎	○	

令和8年度カリキュラムマップ

科目No	科目区分	科目群	科目担当者		授業科目	授業の概要・目的	授業科目の到達目標	ディプロマポリシーの到達度					
			責任者	他担当者				1. 人の暮らしを当事者目線で理解する能力	2. 倫理的な能力と対話能力	3. 気づく能力と思考する能力	4. 人の一生の暮らしを支える看護を实践する能力	5. 人の暮らしを地域に活かす能力	6. 不断に看護を学び続ける能力
74	専門科目	養護教諭科目	薬師神		養護実習事前事後指導	<p>事前指導においては、養護実習で担当するクラスの保健教育・保健学習の授業計画や模擬授業の実施を行う。また、養護実践における指導法について、現職養護教諭の指導を受けながら、学校現場での対応方法を学ぶ。事後指導においては、養護実習での体験を理論と照らしつつ省察し、理論と実践の往還を行う。</p> <p>事前指導では、養護実習で体験する学校における健康教育、救急処置、感染対策、熱中症の予防等、習得しておくべき対応方法について習得する。事後指導では、幼稚園、小学校、中学校、高校、特別支援学校での実習で学んだことを整理・統合し、養護教諭の役割や学校職員との連携の重要性について省察する。</p>	<p>養護実習を行う上で、以下の目的を達成するために、事前の養護実践及び事後の省察を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護実習に必要な学校保健に関する知識・救急処置の技術について、事前学習することができる。 2. 保健学習または健康教育の模擬授業案を作成し、授業を実施することができる。 3. 養護実習での学びや体験を整理し、実習報告会で学習成果を発表できる。 4. 実習報告会を通して相互に学びあい、養護教諭の専門的能力や態度について説明できる。 5. 養護実習の目的のうち達成できたことと達成できなかったことを自己評価し、養護教諭に必要な能力について、自分のこれからの課題を明らかにすることができる。 		○	○	◎	○	
75	専門科目	養護教諭科目	薬師神		養護実習	<p>附属学校園（小学校・中学校・高等学校）において、4週間の養護実習を行う。4週間の実習のうち、実習配属校以外での見学実習を半日または1日実施する（幼稚園含む）。</p> <p>児童・生徒の学校生活を理解し、学校保健の二大領域である「保健教育」及び「保健管理」を体験し、児童・生徒の心身の成長発達や健康の維持及び健康上の問題に関する指導・助言のあり方について考察する。また、学校教育全体の組織・運営を理解するとともに、学校保健安全活動計画の作成と実践に参加し、学校保健活動における養護教諭の役割、活動内容および方法について考察する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童・生徒が学校生活を通して、健康的に成長・発達していく過程を説明できる。 2. 学校保健・安全の維持・向上をめざした対人管理（心身の健康管理及び生活の管理）ならびに対物管理（学校環境の管理）を理解し、養護教諭の活動を実施する。 3. 保健室の機能及び運営方法を理解し、保健室運営を行う。 4. 児童・生徒への保健教育を実施する。 5. 学校保健活動と家庭や地域との連携・協力を推進する取り組みについて、説明できる。 6. 愛媛大学附属高校及び教育学部附属学校園の見学においては、学校種による学校保健活動の違いを具体的に述べることができる。 	○	○	○	◎	○	○